

ランダムウォークの推移確率の漸近評価

システム情報数学 ii
芳賀智史

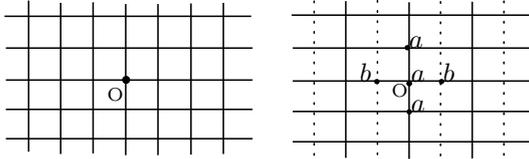
平成 24 年 2 月 13 日

1 概要

グラフ上の単純ランダムウォークの n -step 推移確率の漸近評価の例として、次のようなものがある。

- Z^2 : $Q^{(2n)}(\mathbf{0}, \mathbf{0}) \sim (\pi n)^{-1} \quad (n \rightarrow \infty)$
- 三角格子: $Q^{(n)}(\mathbf{0}, \mathbf{0}) \sim \frac{\sqrt{3}}{2}(\pi n)^{-1} \quad (n \rightarrow \infty)$
- 六角格子:
 $Q^{(2n)}(\mathbf{0}, \mathbf{0}) \sim \frac{3\sqrt{3}}{4}(\pi n)^{-1} \quad (n \rightarrow \infty)$
- カゴメ格子:
 $Q^{(n)}(\mathbf{0}, \mathbf{0}) \sim \frac{2\sqrt{3}}{3}(\pi n)^{-1} \quad (n \rightarrow \infty)$

これらに対し、 Z^2 から頂点を残して、 $x = \pm 1, \pm 3, \dots$ を除いたようなグラフを考える。(このグラフを G と表す)



このグラフ G 上の単純ランダムウォークの n -step 推移確率の漸近評価を調べる。

2 グラフ G 上のランダムウォーク

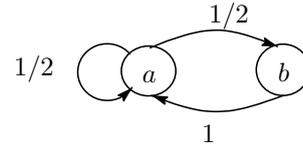
G 上のランダムウォークを次の 2 段階に分けて考える。

(i) 移動後の頂点のタイプを 2 つのタイプ a, b からランダムに選ぶ。

(ii) 次に、選ばれた点のタイプうち、その 2 点から 1 点を選び、移動する。

(i) のタイプの变化は、状態空間 $\{a, b\}$ をもつマルコフ連鎖であり、これを $\{\xi(n)\}$ とすると、推移確率は次のように表される。

$$T(x, y) = \begin{cases} 1 & , (x, y) = (b, a) \\ \frac{1}{2} & , (x, y) = (a, a), (a, b) \\ 0 & , \text{それ以外} \end{cases}$$



$\{\xi(n)\}$ とは独立な確率変数の列 $\{Y_{xy}(n)\}$ ($xy = aa, ab, ba$) を導入する。ここで、 $\{Y_{xy}(n) : n \geq 1, xy = aa, ab, ba\}$ は独立確率変数の系で、

$$P(Y_{aa}(n) = (0, \pm 1)) = \frac{1}{2}, P(Y_{ab}(n) = (\pm 1, 0)) = \frac{1}{2}$$

$$P(Y_{ba}(n) = (\pm 1, 0)) = \frac{1}{2}$$

を満たす。さらに、各 $n \geq 1$ に対して、 $Y_{aa}(n), Y_{ab}(n), Y_{ba}(n)$ の分布の特性関数を $\theta = (\theta_1, \theta_2) \in \mathbf{R}^2$ に対し、それぞれ

$$\varphi_{aa}(\theta) = \cos \theta_2$$

$$\varphi_{ab}(\theta) = \varphi_{ba}(\theta) = \cos \theta_1$$

と表す。そして、 G 上のランダムウォークの n 歩目の位置 $X(n)$ は、

$$X(n) = X(0) + Y_{\xi(0)\xi(1)}(1) + \dots + Y_{\xi(n-1)\xi(n)}(n)$$

により与えられ、これが G 上のランダムウォークとなる。 $(X(n))$ のタイプは、 $(\xi(n))$ のタイプに一致する)

ここで、 G 上のランダムウォークの n -step 推移確率を $Q^{(n)}(i, j)$ ($i, j \in G$) と表すと、次のことが成り立つ。

命題 2.1

$$Q^{(2n)}(\mathbf{0}, \mathbf{0}) = \pi^{-2} P(\xi(2n) = a) \int_{[-\pi/2, \pi/2]^2} H_{2n}(\theta) d\theta$$

が成り立つ。ここで、一般の n に対して、

$$H_n(\theta) = \mathbf{E} \left[(\cos \theta_2)^{M_{aa}(n)} (\cos \theta_1)^{N_{ab}(n)} \mid \xi(n) = a \right]$$

$$M_{xy}(n) = |\{1 \leq m \leq n : \xi(m-1)\xi(m) = xy\}|$$

$$N_{ab}(n) = M_{ab}(n) + M_{ba}(n)$$

とする。

漸近評価を求めるために、補題をいくつか用意する。

補題 2.1 任意の $n \geq 0$ に対し、

$$\begin{aligned} \left| T^{(n)}(a, a) - \frac{2}{3} \right| &\leq 2^{-n} \\ \left| T^{(n)}(a, b) - \frac{1}{3} \right| &\leq 2^{-n} \\ \left| T^{(n)}(b, a) - \frac{2}{3} \right| &\leq 2^{-n} \end{aligned}$$

が成り立つ。ここで、 $T^{(n)}(x, y)$ ($x, y \in \{a, b\}$) はマルコフ連鎖 $\{\xi(n)\}$ の n -step 推移確率を表す。

補題 2.2 ある定数 $C > 0$ が存在して、 $xy = aa$ または ab または ba に対して、

$$E \left[\left(M_{xy}(n) - \frac{n}{3} \right)^2 \right] \leq Cn, \quad n = 1, 2, \dots$$

が成り立つ。さらに、任意の $\varepsilon > 0$ に対して、

$$P \left(\left| M_{xy}(n) - \frac{n}{3} \right| > \varepsilon n \right) \leq \frac{C}{\varepsilon^2 n}, \quad n \geq 1$$

が成り立つ。

補題 2.3 (i) $0 < s < 1$ に対し、定数 $0 < c_1(s) < 1$ が存在して、

$$E \left[s^{M_{aa}(n)} | \xi(0) = a \right] \leq c_1(s)^n \quad (n \geq 1)$$

が成り立つ。

(ii) $0 < s < 1$ に対し、定数 $0 < c_2(s) < 1$ と $c_3(s) > 0$ が存在して、

$$E \left[s^{N_{ab}(n)} | \xi(0) = a \right] \leq c_3(s) c_2(s)^n \quad (n \geq 1)$$

以上の結果から、次の漸近評価が得られる。

定理 2.1 G 上の単純ランダムウォークの n -step 推移確率を $Q^{(n)}(j, k)$ ($j, k \in G$) としたとき、

$$Q^{(2n)}(\mathbf{0}, \mathbf{0}) \sim \sqrt{2}(\pi n)^{-1} \quad (n \rightarrow \infty)$$

が成り立つ。

3 定理 2.1 の証明の概略

(step 1) $0 < \delta < \pi/4$ を固定。任意の $\varepsilon > 0$ に対し、

$$\begin{aligned} A^\varepsilon(2n) &= \left\{ \left| M_{aa}(2n) - \frac{2n}{3} \right| < 2\varepsilon n, \right. \\ &\quad \left. \left| M_{ab}(2n) - \frac{2n}{3} \right| < 2\varepsilon n, \left| M_{ba}(2n) - \frac{2n}{3} \right| < 2\varepsilon n \right\} \end{aligned}$$

とおく。そして、命題 2.1 の積分を 3 つに分けて、

$$Q^{(2n)}(\mathbf{0}, \mathbf{0}) = I_1(2n) + I_2(2n) + I_3(2n)$$

とおく。ただし、

$$I_1(2n) = \pi^{-2} P(\xi(2n) = a) \int_{|\theta| < \delta} H_{2n}^1(\theta) d\theta \\ \times P(A^\varepsilon(2n) | \xi(2n) = a)$$

$$I_2(2n) = \pi^{-2} P(\xi(2n) = a) \int_{|\theta| < \delta} H_{2n}^2(\theta) d\theta \\ \times P(A^\varepsilon(2n)^c | \xi(2n) = a)$$

$$I_3(2n) = \pi^{-2} P(\xi(2n) = a) \\ \times \int_{[-\pi/2, \pi/2]^2 \cap (|\theta| \geq \delta)} H_{2n}(\theta) d\theta$$

$$H_{2n}^1(\theta) = E[(\cos \theta_2)^{M_{aa}(2n)} (\cos \theta_1)^{N_{ab}(2n)} \\ | \xi(2n) = a, A^\varepsilon(2n)]$$

$$H_{2n}^2(\theta) = E[(\cos \theta_2)^{M_{aa}(2n)} (\cos \theta_1)^{N_{ab}(2n)} \\ | \xi(2n) = a, A^\varepsilon(2n)^c]$$

とする。

(step 2) 補題 2.3 を用いて、 $I_3(2n)$ を評価することで、 $\lim_{n \rightarrow \infty} n I_3(2n) = 0$ を示す。

(step 3) 事象 $A^\varepsilon(2n)^c$ において、

$$\begin{aligned} &(\cos \theta_2)^{M_{aa}(2n)} (\cos \theta_1)^{N_{ab}(2n)} \\ &\leq (\cos \theta_2)^{\frac{2n}{3}} + (\cos \theta_1)^{\frac{2n}{3}} \end{aligned}$$

が成り立つことと、補題 2.2 を用いることで $I_2(2n)$ を評価する。さらに、積分の漸近公式

$$\int_{-\delta}^{\delta} (\cos \theta)^t d\theta \sim \sqrt{\frac{2\pi}{t}} \quad (t \rightarrow +\infty)$$

を用いることで、 $\lim_{n \rightarrow \infty} n I_2(2n) = 0$ が示される。

(step 4) 事象 $A^\varepsilon(2n)$ において、

$$\begin{aligned} &\{ \cos \theta_2 (\cos \theta_1)^2 \}^{\frac{2n}{3} + 2\varepsilon n} \\ &\leq (\cos \theta_2)^{M_{aa}(2n)} (\cos \theta_1)^{N_{ab}(2n)} \\ &\leq \{ \cos \theta_2 (\cos \theta_1)^2 \}^{\frac{2n}{3} - 2\varepsilon n} \end{aligned}$$

により、 $I_1(2n)$ を評価し、積分の漸近公式

$$\int_{|\theta| < \delta} (\cos \theta_2 (\cos \theta_1)^2)^t d\theta \sim \frac{\sqrt{2\pi}}{t} \quad (t \rightarrow \infty)$$

を用いることで、 $\lim_{n \rightarrow \infty} n I_1(2n) = \sqrt{2\pi}^{-1}$ が成り立つ。

参考文献

- [1] 志賀徳造: 共立講座 21 世紀の数学 (第 10 巻) ルベグ積分から確率論, 共立出版, 2000
- [2] Frank Spitzer: Principles of Random Walk (Graduate Texts in Mathematics - 34), Springer-Verlag, 1976
- [3] R.B. シナジ: マルコフ連鎖から格子確率モデルへ, Springer, 2001.